IAFセミナー

KPIを活用したSMKL指標とスマート製造の国際標準化動向

2021年2月3日 藤島光城 (三菱電機(株)) Industrial Automation Forum(IAF) /制御層情報連携意見交換会(CLiC)/KPI分科会 主査



自己紹介

- ◆ 1993年三菱電機(株)入社 名古屋製作所でFA関連の設計・開発に従事 NC装置、ロボット制御装置、安全シーケンサ 現在:開発部規格標準化推進グループマネージャー
- ◆ 国際標準化

<スマート・マニュファクチャリング関連>

IEC/TC65/WG16(Digital Factory)国際/国内委員

IEC/TC65/JWG21(Smart Manufacturing Reference Model(s) linked to ISO/TC 184) 国際/国内委員 <フィールド・ネットワーク関連>

IEC/SC65C/WG12(Functional Safety for Fieldbus)国際/国内委員

IEC/SC65C/MT9(Fieldbus maintenance)国際/国内委員

IEC/SC65C/JWG10(Industrial Cabling)国際/国内委員

◆ コンソーシアム(国内)

IAF(インダストリアル オートメーション フォーラム)/運営委員会、/CLiC(KPI分科会主査) RRI(ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会)/WG1/標準化AG1委員、SWG8委員 IVI(インダストリアル バリューチェーン イニシアディブ協議会)/業務WG APSOM(APSモノづくり機構)/理事会、/産業応用委員会、/MESX-JP委員長 OPC Foundation 三菱電機窓口 FDT Group 三菱電機窓口、/日本支部/マーケティングWG、/FA – WG HCMIコンソーシアム /ビジネスコネクティング部会、/研究開発部会

◆ 大学関連

東工大MOT標準化戦略実践コース 講師(2019/7~) 早稲田大学嘱託教員(2020/6~)



目次

- ◆ スマート製造の国際標準化動向(20分)
- ◆ KPIを活用したSMKL(Smart Manufacturing Kaizen Level) 指標(30分)
- ◆ 質疑応答(10分)



第四次産業革命とは?

◆ 第一次産業革命(欧米中心に18世紀から19世紀にかけて発生)

技術:蒸気機関

特徴:鉄/繊維工業が発展し、工業化や都市化が進行

◆ 第二次産業革命(1870年から第一次世界大戦直前の1914年迄)

技術:内燃機関、電気を使った電話機、電球、蓄音機

特徴:鋼鉄、石油、電気などの産業が拡大。電力を使い大量生産を実施

◆ 第三次産業革命(1980年代から始まり、現在も継続中)

技術:パーソナルコンピュータ、インターネット、情報通信技術

特徴:アナログ回路及び機械デバイスからデジタル技術へ発展

◆ 第四次産業革命 = I4.0 (2016年の世界経済フォーラムで初めて使用)

技術:IT、IoT、ロボット工学、人工知能(AI)、3Dプリンター、自動運転車、

仮想/拡張/複合現実(VR/AR/MR)、バイオ技術、量子コンピュータ

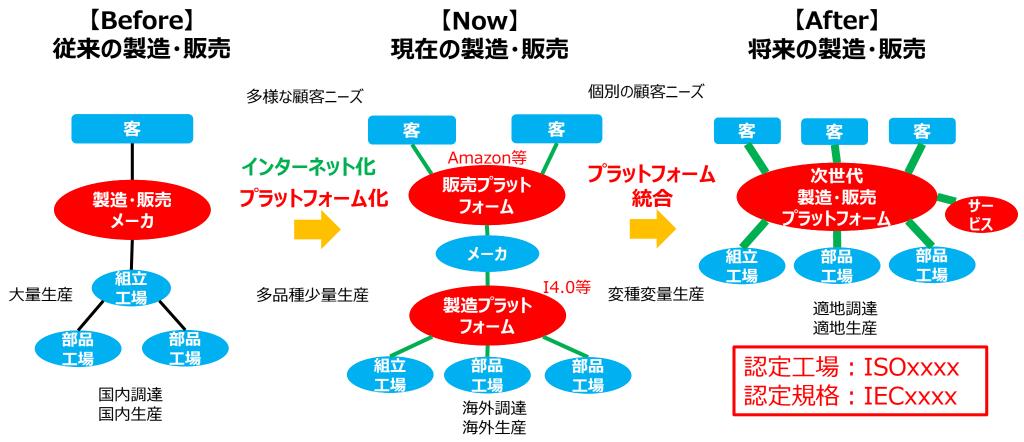
特徴:インターネットを介してデジタル技術が世界中で安くリアルタイムで共有され、

新たなプラットフォームやサービスによる産業の発展(が期待されている)



I4.0やIIoTで何が変わるか?

製造業のパラダイムシフトにより、メーカが作った製品を買うだけではなく、ユーザが欲しい物やサービスを依頼すれば、直接手に入る時代が来る。



次世代の製造・販売プラットフォームとはどのようなものか?早期に見極め対応する事が重要

• 参考図:国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 「次世代ものづくり」

URL: http://www.jst.go.jp/crds/pdf/2015/SP/CRDS-FY2015-SP-01.pdf



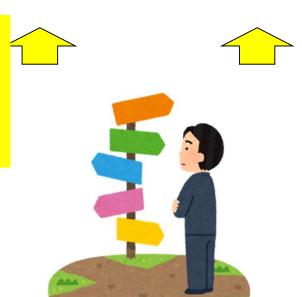
テ、シ、ュール戦略とテ、ファクト戦略について

国際標準化

①デジュール戦略

国際標準化団体へ規格化の 提案を行い、国際規格として 提案する

(5~7年程度要する)

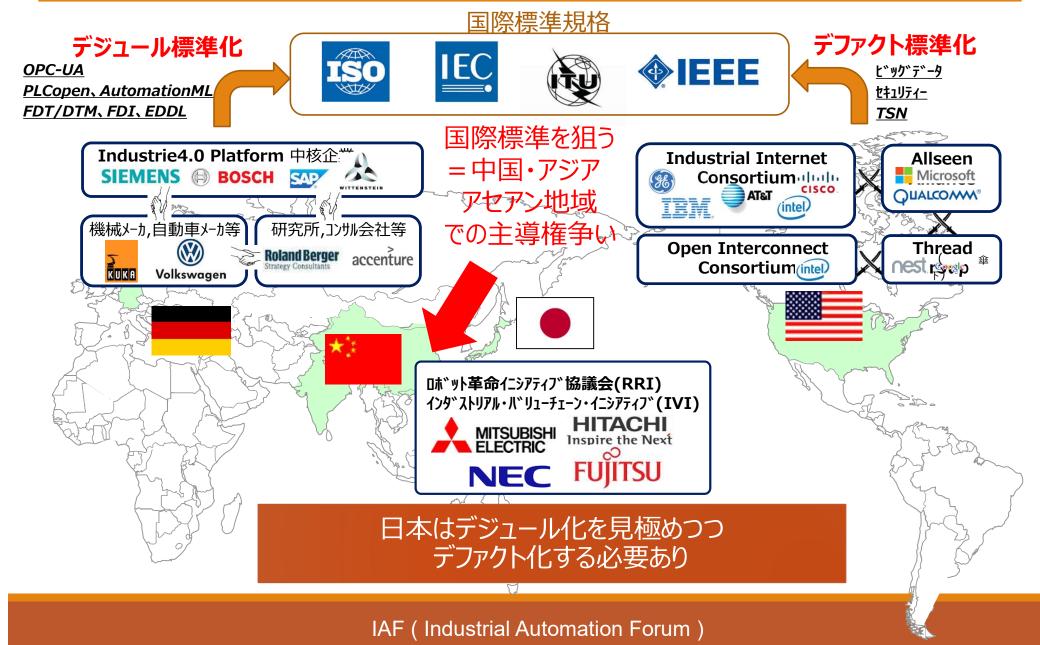


②デファクト戦略

実際に世の中に普及させる ことで、事実上の標準との位 置づけを固める



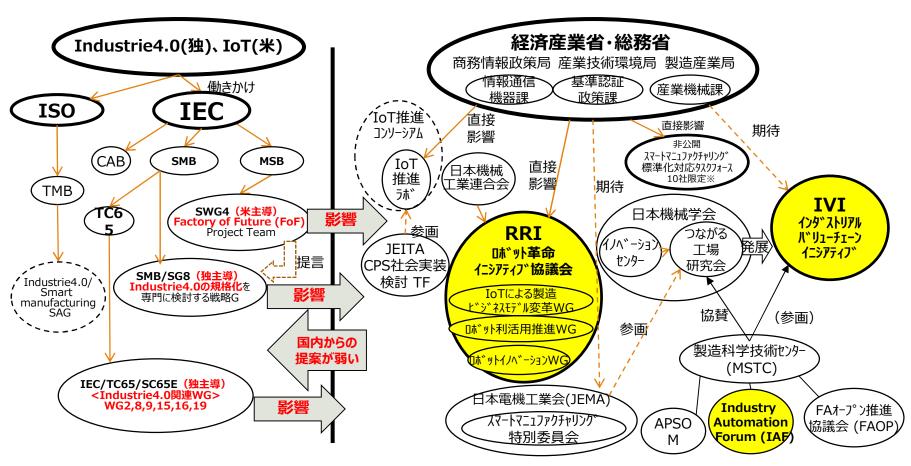
FAにおける産業用DXに関する標準化動向





I4.0、IoT関連の海外と日本の国際標準化状況

ISO/IEC内での独、米の主導権争い 混沌とした国内コンソーシアム活動(情報収集→提案へ)



次世代生産システムの規格標準化団体 関連図 (左側:海外、右側:国内)



FAでの「IT」とは?

Information Technology

□ SCM : 資材調達から販売まで、企業間連携の管理システム

□ ERP : 経営の効率化を図るための基幹業務パッケージ

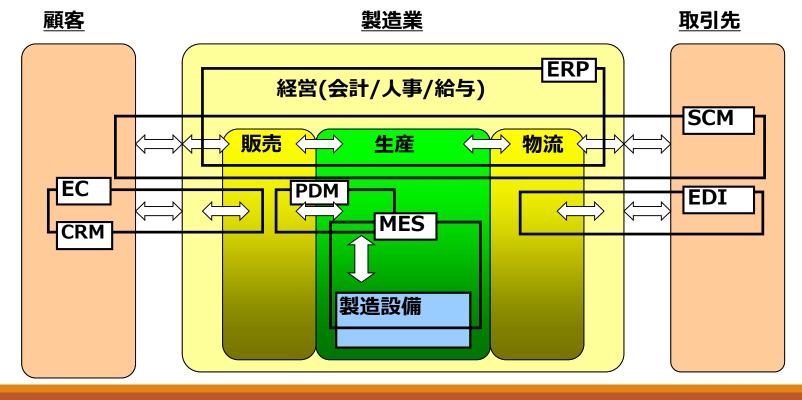
□ EC : ネットワークを利用して契約や決済などを行う電子取引

□ CRM: 顧客情報の管理により顧客の利便性と満足度を高める

□ PDM : 受注から製造にかかわる全てのデータを統一的に管理

■ MES : ERPと制御システムを繋ぎ生産工程を管理







製造業でのIT情報とは?

業務・計画システム MRP II / ERP / SCP

何を作るか

生産計画、生産スケジュール 生産指示、製造方法 製造仕様、部品表、図面など





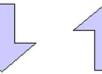
製造実績、製品の進捗 仕掛・在庫情報、歩留まり 設備稼働状況、作業時間など

何が作られたか

製造実行システム MES

どのように作るか

製造指示、製造仕様 レシピ、パラメータ、加工方法、 ロット詳細情報など



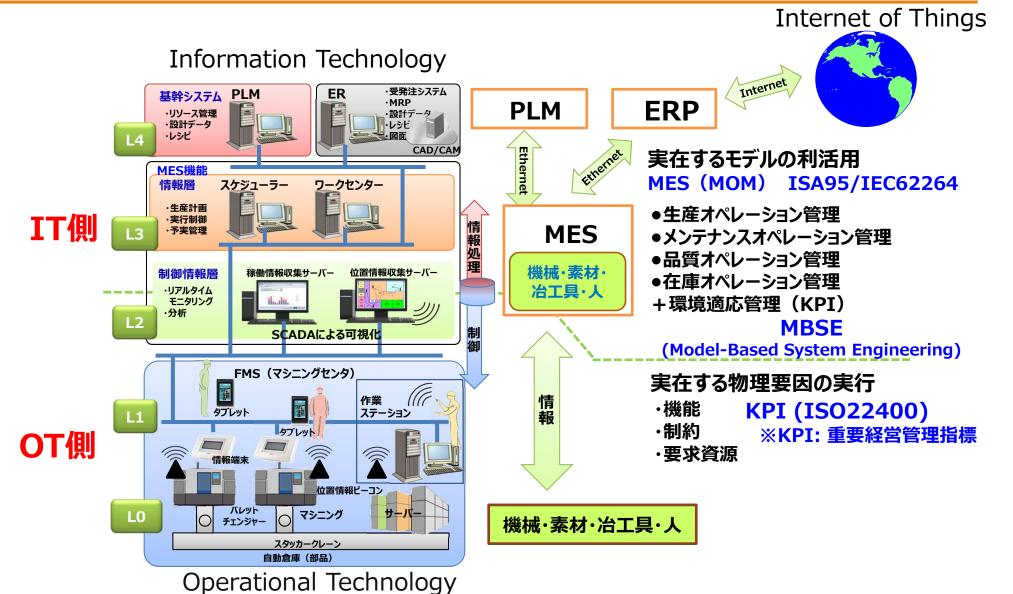


加工データ、測定データ 製造状態、スクラップ(不良)情報 作業開始・終了報告など

制御システム·作業者 SCADA/HMI/DCS どのように 作られたか

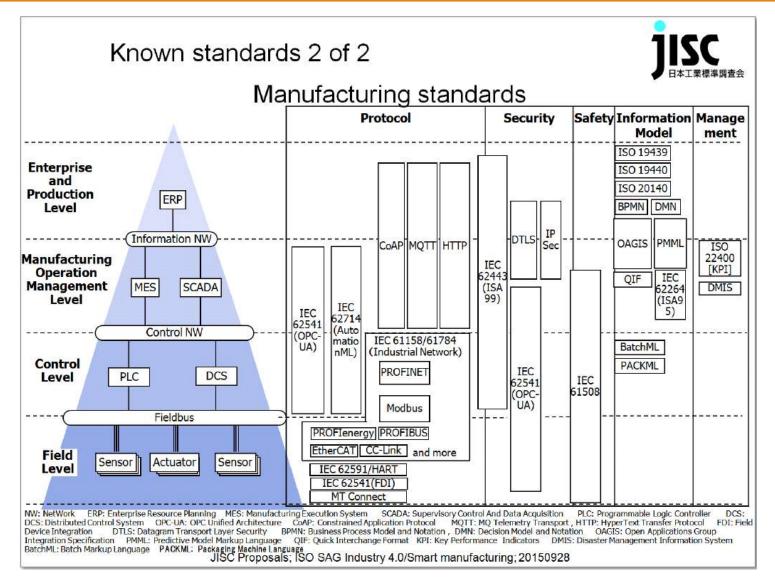


FAでの「IT」と「OT」と「IoT」とは?





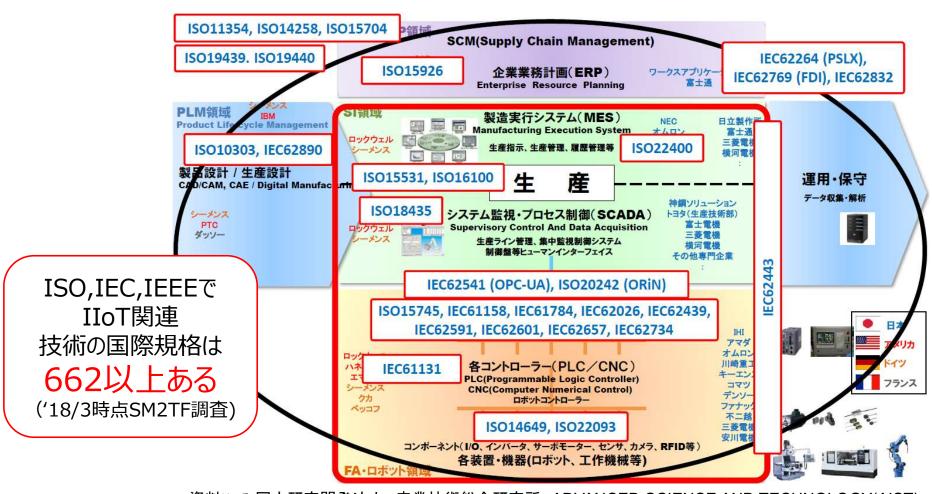
製造業のIoT化、DX化で 注目されている国際標準技術について





サプライチェーンやライフサイクル全体で 注目されている国際標準化技術について

14.0,IoTに関連する多くの技術が既に国際標準化されている



資料ソース:国立研究開発法人 産業技術総合研究所 ADVANCED SCIENCE AND TECHNOLOGY(AIST)



産業用の重要業績評価指標

Key performance indicators (ISO22400)

KPI

> 35 KPI definition on this standard (Part 2 9.1~9.35)

✓ Efficiency indicators	9	効率
✓ Quality indicators	9	品質
✓ Capacity index	4	能力
✓ Environmental indicators	4	環境
✓ Inventory management indicators	6	在庫
✓ Maintenance indicators	3	保守

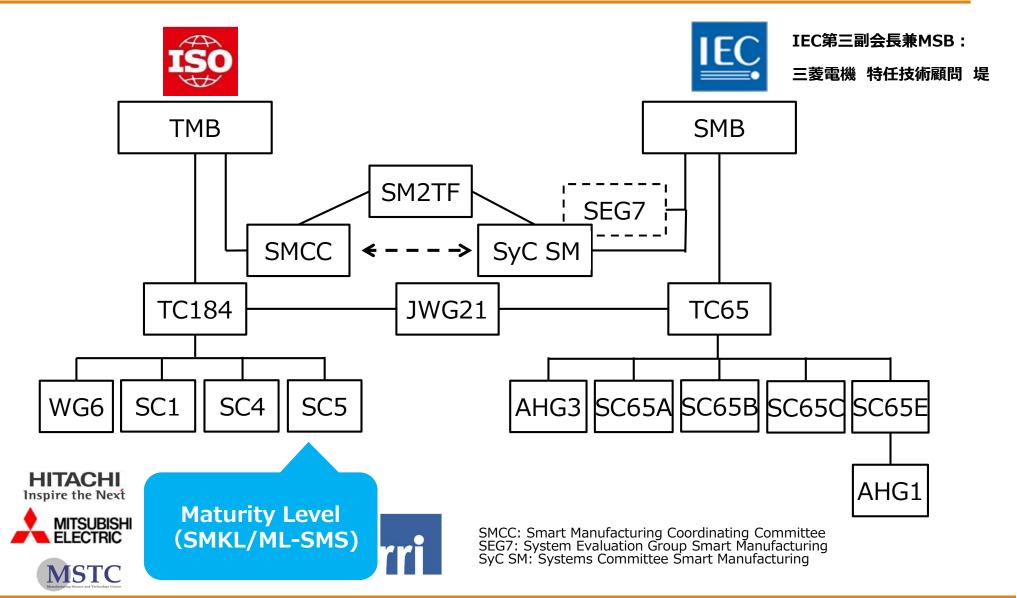


産業用のKPI(ISO22400)

2) Allocation ratio (負荷度) 1) Worker efficiency(労働生産性効率) 3) Throughput rate (生産量比率) 5) Utilization Efficiency (利用効率) 7) NEE Index (正味設備効率) 4) Allocation efficiency (実稼働/稼働計画 比率) 6) OEE Index (設備総合効率), 8) Availability,(設備有効性) 10) Quality ratio (品質率;良品率) 9) Effectiveness(工程効率) 12) Technical usage level(設備保全利用率) 11) Setup ratio (段取率) 14) Scrap degree (廃棄度合) 13) First pass vield (直行率) 16) Production process ratio (工程利用率) 15) Scrap ratio (廃棄率) 17) Rework ratio (手直率) 18) Fall-off ratio (減衰率) 19) Machine capability index (機械能力指数: Cm)) 20) Critical machine capability index (クリティカル機械能力指数: Cmk) 21) Process capability index (工程能力指数: Cp) 22) Critical process capability index (クリティカル工程能力指数: Cpk) 23) Ratio of used material (材料使用率) 24) Harmful substances (有害物質) 25) Hazardous waste ratio (危険物質廃棄率) 26) Comprehensive energy consumption (総合エネルギー消費量) 28) Finished goods ratio (良品率) 27) Inventory turns (在庫回転率) 29) Integrated goods ratio (総合良品率) 30) Production lost ratio (製品廃棄率) 31) Storage and transportation lost ratio (在庫輸送廃棄率) 32) Other lost ratio (その他廃棄率) 33) Equipment load rate (設備負荷率) 34) Mean time between failures (平均故障間隔) 35) Corrective maintenance ratio (改良保全率)



スマート製造関連国際標準化状況





スマート製造の 成熟度レベル比較

国内ではIAFからSMKL、日立製作所からML-SMSを提唱。その他にも、 様々な「成熟度レベル」が各国から検討されている。

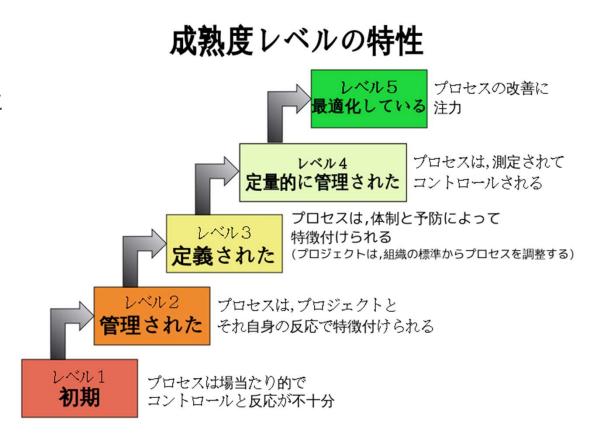
また、多くの成熟度レベルは、Smart Manufacturing の成熟度を評価するために、旧来あったCMM(Capacity Maturity Model、カーネギーメロン大学)を参照し、それぞれ独自の視点で評価し、DXにおけるスマート製造の成熟度モデルの提唱を行っている。

国名	提唱元	成熟度モデル	
日	IAF (三菱電機)	SMKL (Smart Manufacturing Kaizen Level)	
	日立製作所	ML-SMS (Maturity Level for Smart Manufacturing System)	
	経産省	デジタル経営改革のための評価指標(「DX推進指標」)	
米	NIST	SMSRL (Smart Manufacturing System Readiness Level)	
新	EDB	SIRI (Smart Industry Readiness Index)	
独	PI4.0	IMI (Industrie4.0 Maturity Index)	
中	CESI	IMML (Intelligent Manufacturing Maturity Level)	



CMM (Capability Maturity Model)

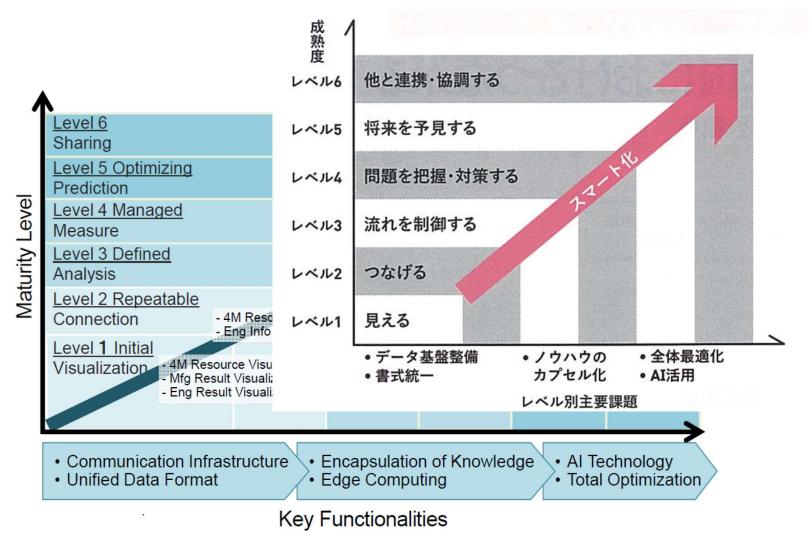
- ◆ カーネギーメロン大にて開発
- ◆ 当初はソフトウェア開発の成熟度 モデルであったが、システム開発や 調達、人材開発などに拡張された
- ◆ 現在各国から提唱されている Smart Manufacturingの成熟 度モデルについてもこのフレームワ ークに基づいたものが大半(判定 基準に差異がある)
- ◆ ISO/IEC 15504 (審議団体 ISO/IEC/JTC1/SC7)で標準 化



Wikipediaより



(日立) ML-SMS



XML-SMS: Maturity Level for Smart manufacturing System



各国の成熟度レベル

シンガポール(EDB) SIRI

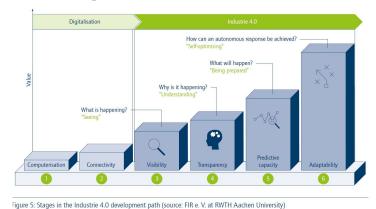
SINGAPORE SMART INDUSTRY READINESS INDEX

Process Buil		liding Block Operations Pillar Vertical Integration Dimension				
			systems across all hierarchical levels of a connected, end-to-end data thread.			
	Band	Definition	Description			
0	Undefined	Vertical processes are not explicitly defined.	Resource planning and technical production processes are managed and executed in silos, based on informal or ad-hoc methods.			
1	Defined	Vertical processes are defined and executed by humans, with the support of analogue tools. ¹	Resource planning and technical production processes are managed and executed in sitos, based on a set of formally defined instructions.			
2	Digital	Defined vertical processes are completed by humans with the support of digital tools.	Resource planning and technical production processes are managed and executed in silos, by Operations Technology (OT) and information Technology (IT) systems.			
3	Integrated	Digitized vertical processes and systems are securely integrated across all bierarchical levels of the automation pyramid. ²	OT and IT systems managing resource planning and technical production processes are formally linked; however the exchange of data and information across different functions is predominantly managed by humans.			
4	Automated	integrated vertical processes and systems are automated, with limited human intervention.	OT and IT systems managing the resource planning and technical production processes are formally linked, with the exchange of data and information across different functions predominantly executed by equipment, machinery and computer-based systems.			
5	Intelligent	Automated vertical processes and systems are actively analysing and reacting to data.	OT and IT systems are integrated from end to end, with processes being optimized through insights generated from analysis of data.			

Assessment Tool: The 16 Dimensions

https://www.edb.gov.sg/en/news-and-resources/news/advanced-manufacturing-release.html

独 (PI4.0) Industrie4.0 Maturity Index



http://www.regione.toscana.it/documents/12831649/14334147/Industrie4.0_+MaturityIndex_ITA.pdf/b83406c7-5a21-43d1-a724-7d75ebb4fdac

中国(CESI) IMML

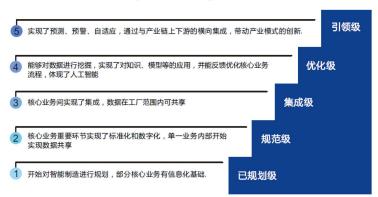


图 2-4 智能制造能力成熟度等级

http://manager.cechina.cn/UpLoad/article/f8f929f4-c531-4943-95db-3310285e84ca/5156e9bb-fc26-48e0-b595-59058656a0ed.pdf



成熟度レベル比較

米	フォーカ	ス評価軸	IT	Information connectivity	Organization	Performance		
	評価	視点	デジタルの利便性	情報の流通性	管理	管理		
		0		n ot perf	ormed			
		1		initia	al			
	Level	2		manag	ged			
	Levei	3		defin	ed			
		4		qualita	tive			
		5 (New)		optimi	zing			
新	フォーカ	ス評価軸	Process		Technology		Organiz	ation
	≣17./#	i 視点	バリュ・ムー	₩ 	<u> </u>	<u> </u>	***TE	<u></u>
	計址	仍无無	「ご」多くのは	以熟度モデルは	t CMMが/	ベーフでおり		Structure
		0	undefin 3 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	が然り又しノノレは	K CITITION	\ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		e
		1	defined TT HI	Cハルカー	全計しわすい	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	酒 竺珊 制	nalization
	Level	2	digital 上 説リリン	S/W視点で	火むりしてタレ		冰、旨垤、 榖	elopment
	Levei	3	integral 🕦 📶 🕹	市小什 《口《处 己	コチャノレ 十立公	ちゅうしゅうしゅう	+5 12"	lementation
		4	automa 垣、不り 1	更性、組織、自	3剉儿6、按约	771生、大山月已16	ばと)。	ing
		5 (New)	intellige	ik et de 10 46 1-1	In I we	~ 1K1#		ptive
			また放え	热度を静的にタ	判断する為は	り指標じめる	0	
独	フォーカ	ス評価軸	Info					
	評価	視点	1					
		0						
		1						
	Level	2						
	LCVCI	3	CMVI	は現場のOT(川の情報を	ヨラスルしょさ	兔箭囲を昍	
		4	SMIKE				37年6四~7	
		5 (New)	「な」こして	PDCATE	か羊を制めし	- 宇佐オスルキ	少なが、士 ス	
			単にして	. PDCACE	以当で到り	し天心り句付	低がのの。	
中	フォーカ	ス評価軸	1.0000000	incompence				
	評価	視点	バリューチェーンの透明性	デジタル世界の利便性				
		1	initial	initial				
		2	defined	defined				
	Level	3	integrated	integrated				
		4	optimized	optimized				
		5	predictive	predictive				



目次

- ◆ スマート製造の国際標準化動向(20分)
- ◆ KPIを活用したSMKL(Smart Manufacturing Kaizen Level) 指標(30分)
- ◆ 質疑応答(10分)



製造現場のみえる化の背景と課題

◆ Industrie4.0、Smart Manufacturingなどの 工場のIoT化が進む中で、製造現場では 「何を」、「いつまでに」、「どのくらいの費用を投資した ら」、「どのレベルまで」、

IoT化が推進、及び改善できたかの"みえる化"ができていないため、経営側の投資判断が難しい。

◆工場のIoTの専門家も少ないため、現場担当者も どうしてよいか分からない。



つまり…





つまり…

何をしたらloT化した ことになるんだよ… (ボスも納得してくれるんだ?)

俺、専門家じゃない んだし、何から手を 付けたらいいのか、 わかんないよ...





SMKLとは?

"みえる化"のレベル

レヘ゛ルd	診える化 (改善) Optimizing				
しへ゛ルc 観える化 しへ゛ルc (分析) Analyzing			16個のマス		<u> </u>
見える化 レヘ゛ルb (可視化) Visualizing				る化/IoT化 し)の一つで L	
レヘ゛ルa	データ収集 Collecting				
みえるレベル	化	設備 • 作業者 Installation & Worker	ライン Workshop	工場全体 Factory	サプライチェーン全体 Supply Chain
管理対象		レヘ・ル1	レヘ・ル2	レヘ゛ル3	レヘ*ル4

管理対象のレベル

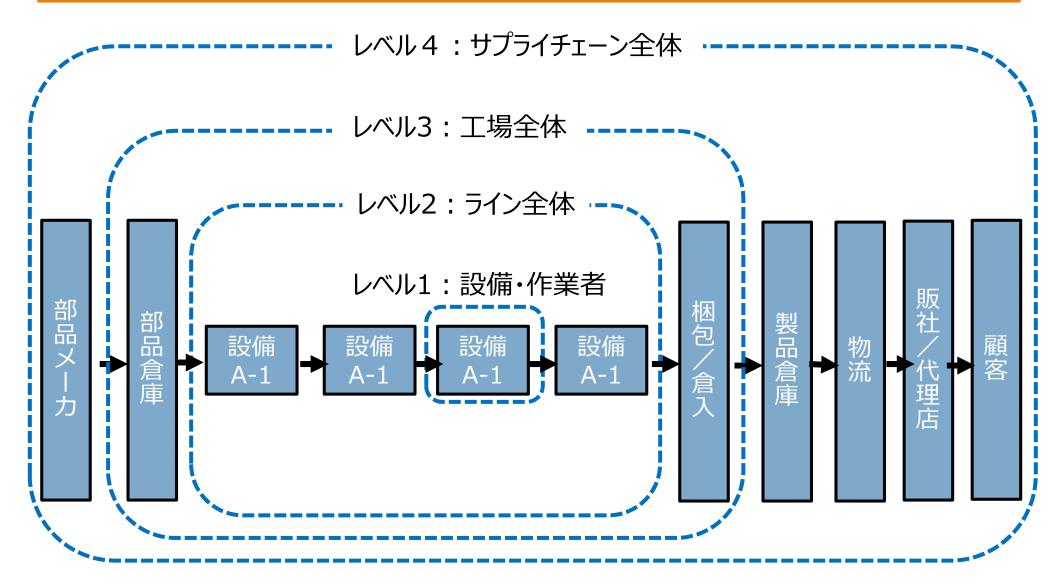


"みえる化"のレベル

・自動、若しくは作業者によるバ−コードスキャ ン等の簡易操作で、管理に必要なデータを 電子的に自動収集、蓄積している。 ※手書き日報等のエクセル等への入力は 対象外。 レベルb ・レベルaのデータ、及び目標(基準)データを 見える化 (可視化) Visualizing ・ブラフで自動表示できる。 ※データを手動でダウンロードし、表やグラフ をエクセル等で、都度作成する場合は対象 外。 レベルc ・レベルbの状態に、基準や目標データも自	
電子的に自動収集、蓄積 している。 ※手書き日報等のエクセル等への入力は 対象外。 しべルb ・レベルaのデータ、及び目標(基準)データを 見える化 (可視化) Visualizing ・エカセル等で、都度作成する場合は対象 外。 ・ス・リスト表示 ・ク・ラフ ・レストク・ラム トレント・)	ス
Collecting ※手書き日報等のエクセル等への入力は 対象外。 ファイル管 対象外。 ・レベルb ・レベルaのデータ、及び目標(基準)データを ・リスト表示 表やグラフで自動表示できる。 ※データを手動でダウンロードし、表やグラフ とストグラム トレンド) トレンド) トレンド) トレンド) ・リストの比較に、基準の日標データは ロー・エモのでは、	
対象外。 レベルb ・レヘ・ルaのデータ、及び目標(基準)データを 表やグラフで自動表示できる。	り
レベルb ・レヘ・ルaのデータ、及び目標(基準)データを 表やグラフで自動表示できる。 ※データを手動でダウンロート・し、表やグラフ をエクセル等で、都度作成する場合は対象 外。 ・リスト表示・グラフ (ヒストグラム トレント・)	理
見える化 (可視化) Visualizing タエクセル等で、都度作成する場合は対象 外。	
※データを手動でダウンロート・し、表やグラフ (ヒストグラム トレント・) Visualizing か。 **データを手動でダウンロート・し、表やグラフ (ヒストグラム トレント・)	
(可視化) ※データを手動でダウンロートし、表やグラフ → (ヒストグラム Visualizing タエクセル等で、都度作成する場合は対象 外。	
Visualizing をエクセル等で、都度作成する場合は対象	• •
外。 Living	
レベルc · レベルbの状態に、基準や目標データも自 │ 「伽羅仏要差異	
	<u>Ķ</u>
観える化 動表示され、差異の確認ができる。	
(分析) ・且、差異に対し処置を必要とする差異に │ ・	ι
Analyzing 対しては、関係者に処置を促す通知を自	
動で行う。	5
レベル <u>d</u> ・レヘルcの処置を必要とする差異を抑制す - AI活用	
診える化 るために、人、設備、物に対し、自動的に	
(改善) フィート・バックを行う。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
Optimizing	



「管理対象」の考え方





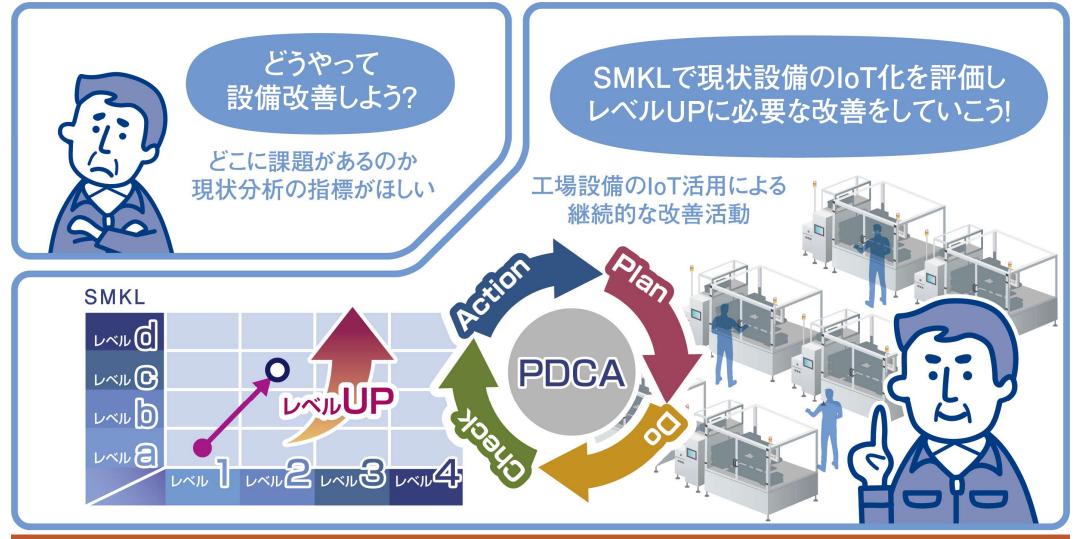
SMKLの目的

- ◆製造現場のみえる化/IoT化の推進方向性の評価による継続的な投資判断が可能
- ◆ 従来の改善(Kaizen)活動だけでなく、新たに "IoTを活用"することにより改善を飛躍的に加速
- ◆ 製造現場の評価レベルに合った、IoT化の製品、 サービス、コンサルティングを紹介
- ◆ 国際標準化を視野に入れ、日本の物づくりの国際的はプレゼンスを向上



SMKL活用事例(設備設計者その1)

SMKLを用いて、工場のIoT化の成熟度レベルを評価し、 設備改善の方向性を検討する



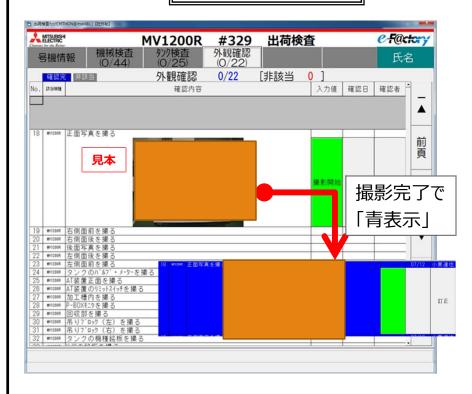


SMKL活用事例(設備投資計画書)

- ■対象工程: x x 装置出荷準備
- ■狙い:作業実績管理、作業効率化
- 改善 レベ・ル

d	診える化				_	
С	観える化				0→1b)	
b	見える化					
а	データ取集					
		作第	美者	ライン	工場	サフ [°] ライチェーン
				2	3	4

■導入事例: 出荷検査サポートッール



Step-1: チェックシートの電子化

- ①サーバウチェックシートマスタ更新による チェックシート差替え作業削減
- ②電子チェックシートにより検査進捗度の リアルタイム把握
- ③進捗度管理によるチェック漏れ削減

Step-2:タプレットカメラ使用による外観確認

- ①外観確認見本をデフォルト表示
- ②確認データは、生産管理システム経由し機種・号機ごと自動保管

■費用と効果

- ·投資額(xxx千円)
- ·出荷検査作業効率化(xxx千円/年)
- ·導入後据付不具合t*口継続(出荷検査責)



SMKLの活用事例(設備投資計画書)

- ■対象工程:xx装置組立(メイン組立)
- ■狙い:作業効率化、指示・実績管理推進
- 改善 レベル

l	d	診える化			. 21.3	
	c 観える化			【1a→2b】		
	b	見える化				
	а	データ取集				
ſ			作業者	ライン	工場	サフ [°] ライチェーン
			1	2	3	4

■導入事例: 組立作業サポートッール



①作業者の手元タブレットにて 図面・要領書が見れる

(班長の図面入手時間も削減)

- ②作業工程ごとに着手・完了計画を指示
- ③作業実績データとして着手・完了を収集
 ※収集データは作業実績分析ツールで活用
- ④作業習熟管理機能を装備
- ⑤その他情報もタブレットにて確認可能
 - ・号機情報:オプション仕様、小日程計画
 - ・板金部品確認:現物写真の直感的確認

■費用と効果

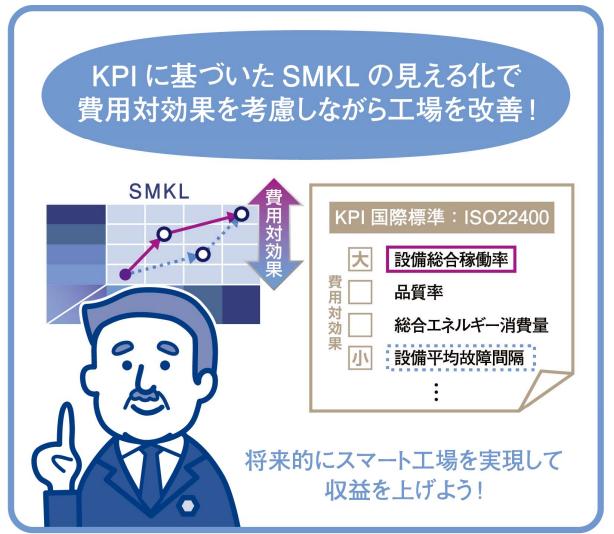
- ·投資額(xxx千円)
- ・作業ロスの削減(xxxx千円/年)
- ・新人作業ダブルチェックによる不具合削減



SMKL活用事例(工場経営者)

重要経営管理指標のKPIに基づいたSMKLを用いて、工場のIoT成熟度レベルを評価し、 費用対効果の高い管理情報や設備からIoT化し、将来的に収益の高いスマート工場を実現する

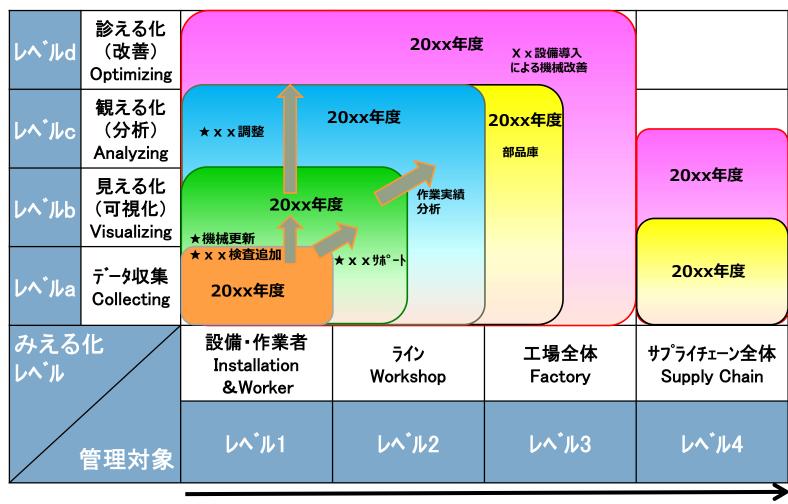






SMKL活用事例(中期IoT化設備計画)





管理対象のレベル



SMKL活用例(工場のIoT適用による業務効率向上)

"みえる化"のレベル

AIを使った仕掛品台 車識別により、製品の 診える化 先入先出を確保 レヘ 、ルd (改善) 出来高管理 **Optimizing** 生産進捗管理 観える化 湿度自動管理 レヘ ルc (分析) **Analyzing** 工程流れ管理 見える化

業務効率向上: (4810h-1788h) /4810h

=<u>62.8%</u>

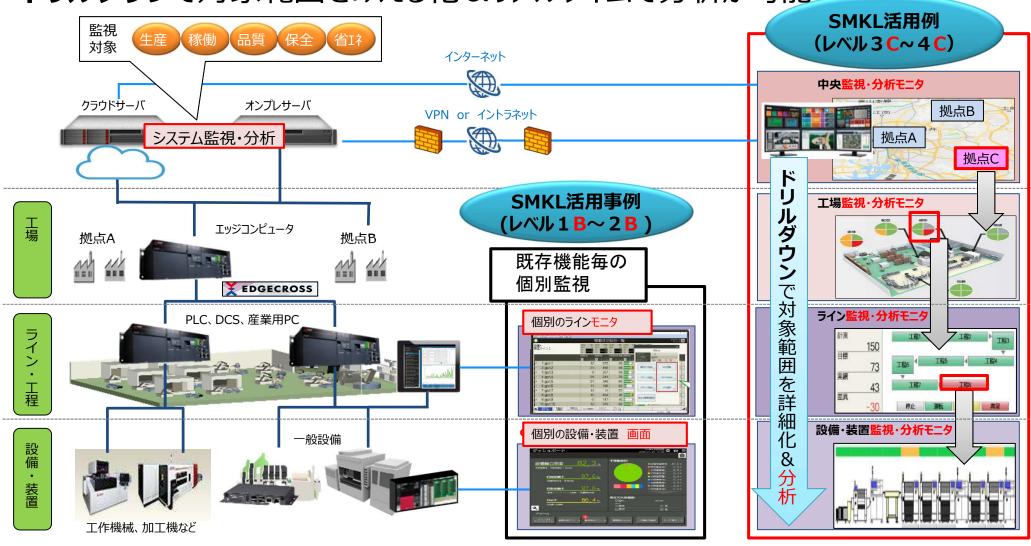
レヘル	ınstallation &Worker	Workshop	Factory	Supply Chain
管理対象	レヘ・ル1	レヘ・ル2	レヘ゛ル3	レヘ・ル4

管理対象のレベル



SMKL活用例(ドリルダウンでみえる化)

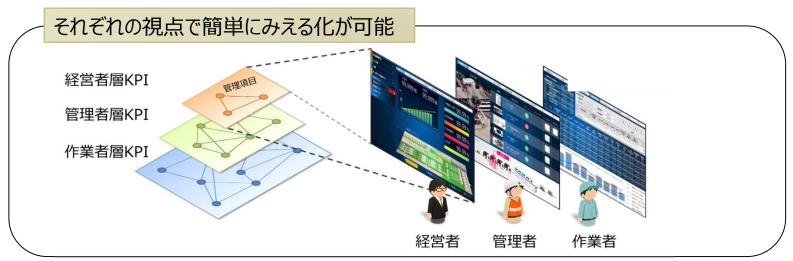
ドリルダウンで対象範囲をみえる化&リアルタイムで分析が可能

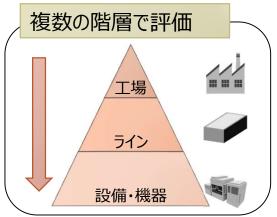


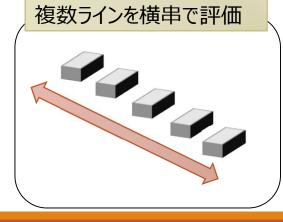


SMKL活用例(工場の経営者~作業者までみえる化)

生産現場全体から装置1台に至るまでKPIを一括監視、一元管理。 経営者・管理者・作業者に必要な指標を分かりやすく提供できる。







様々な指標で評価

牛産管理

・生産量

·生産時間 ·段取時間

稼働管理

・稼働率・総合設備効率

品質管理

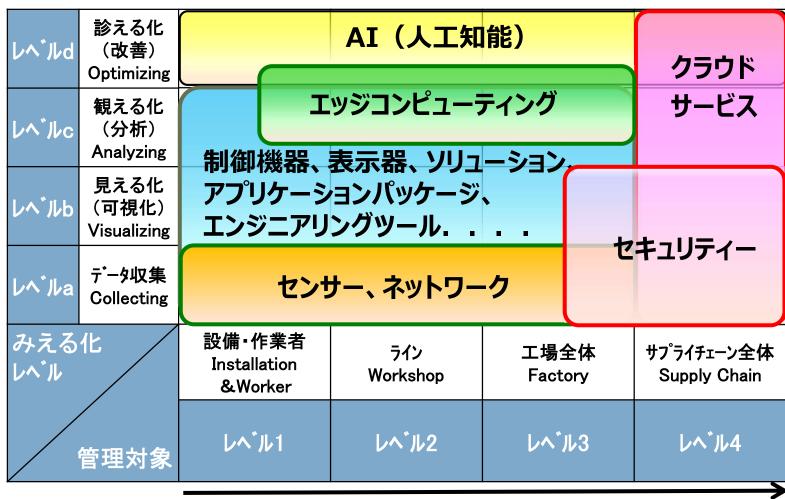
・不良率・不良数・検査数



SMKL技術マップ

最新のIoT技術のマッピングが可能。IoT製品やソリューションとの紐づけができる。

"みえる化"のレベル



管理対象のレベル



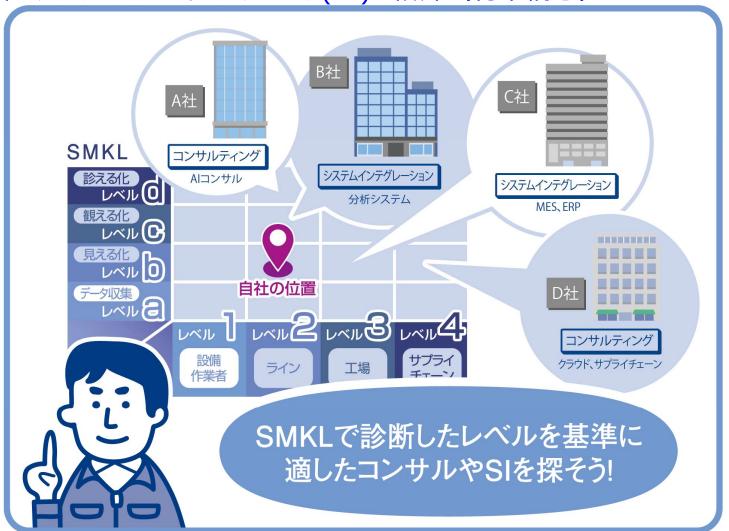
「AFSMKL活用事例(設備設計者その2)

お客様のIoT成熟度レベルに合った、IoT化事例を検索し、 請負可能なコンサルティングや、システムインテグレータ(SI)を紹介(将来構想)





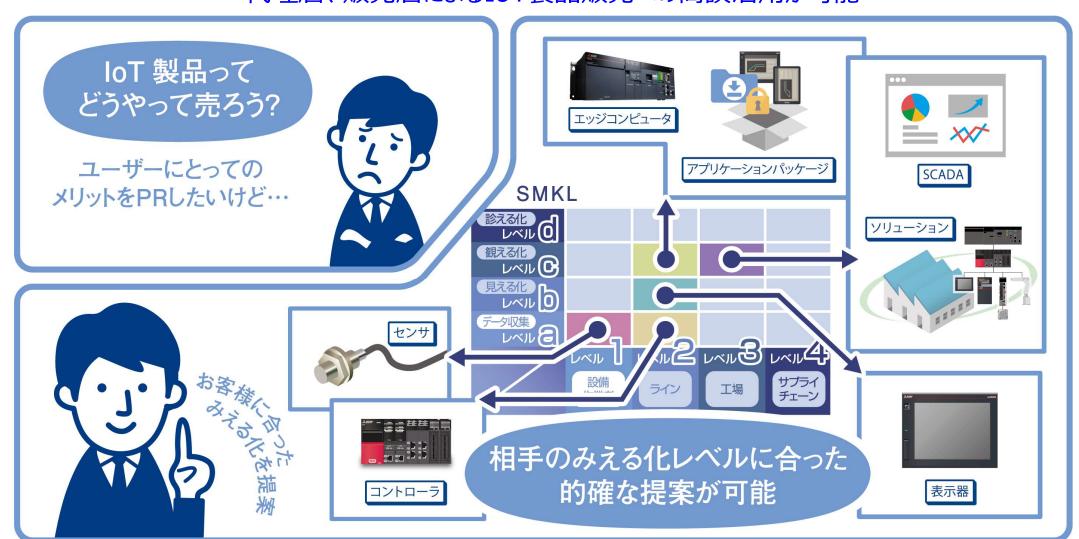
自社にマッチした IoT化の提案をしてほしい





SMKL活用事例(営業マン)

お客様のIoT化の成熟度レベルに合わせて、 代理店、販売店によるIoT製品販売への商談活用が可能





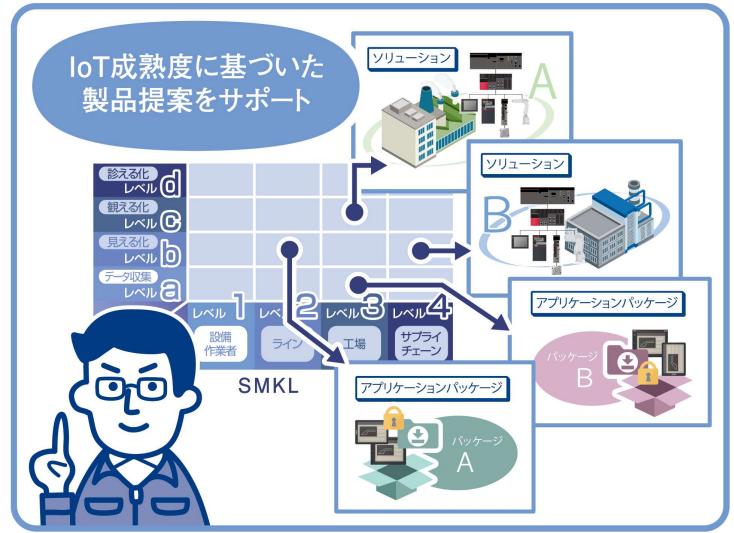
SMKL活用事例(製品開発&設計者)

お客様のIoT成熟度レベルに合った、機能や製品、ソリューションを新たに提案可能漏れやダブりなく、また、単独ではできない提案はパートナーと組む戦略も検討

どんな製品を 提案しよう?



IoT化を図るユーザーの ニーズを捉えたい



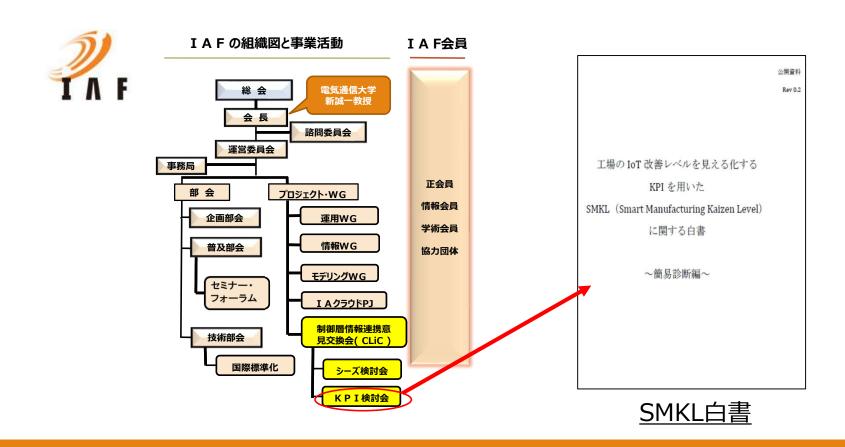
プルF その他 SMKL活用に適するユーザシーン

- ◆ 現場のIoT化を推進するように、経営者からの指示がある
- ◆ 生産性/品質の向上など具体的な経営管理指標に対する経営 者からの改善指示がある
- ◆ 複数の関係工場で統一した基準でIoT化を推進するように経営者からの指示がある
- ◆ 現場での手入力や紙出力など、工場の管理データ電子化して改善したい
- ◆ 時々生産ラインが停止するため、センサー等でデータを集めて分析 & 改善したい
- ◆ 各設備の保守やメンテナンスなどの時期を把握して、保全効率を 改善したい



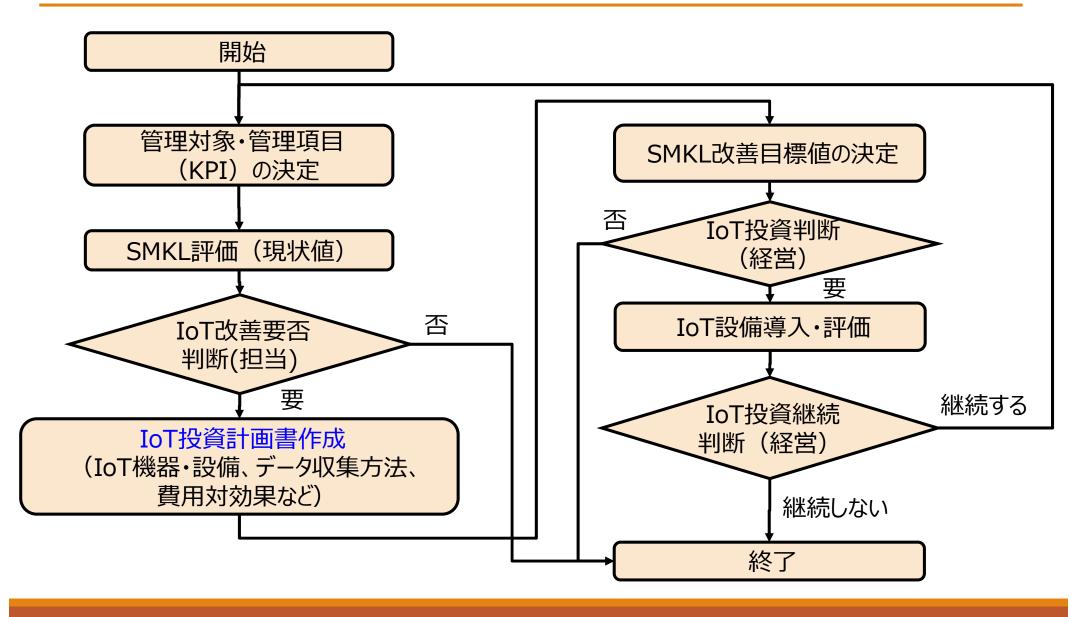
SMKLのIAFからの公開について

◆IAF (Industrial Automation Forum) のKPI検討会で KPIに基づいたSMKLによる工場のみえる化/IoT化の 評価方法の白書を審議し発行。(Web公開:2020年4月) http://www.mstc.or.jp/iaf/clic/SMKLv1.pdf





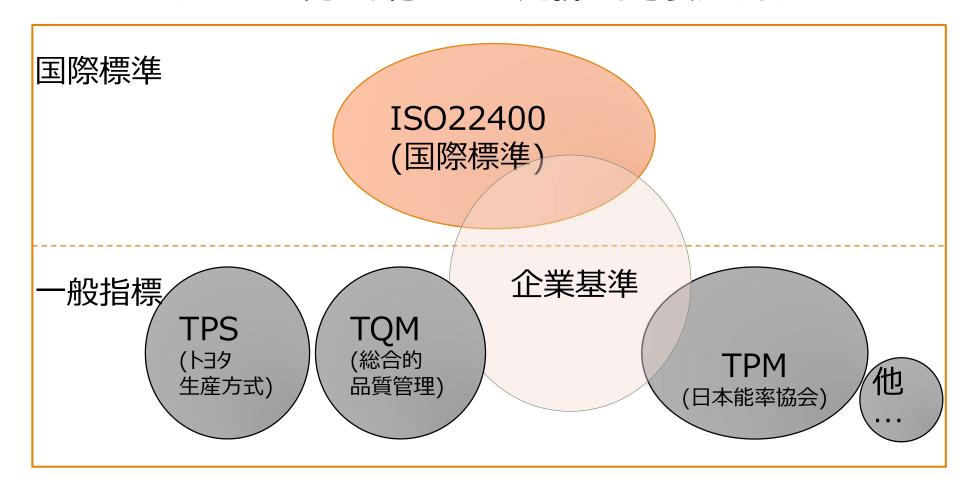
InfSMKL白書での業務フロー(設備計画)





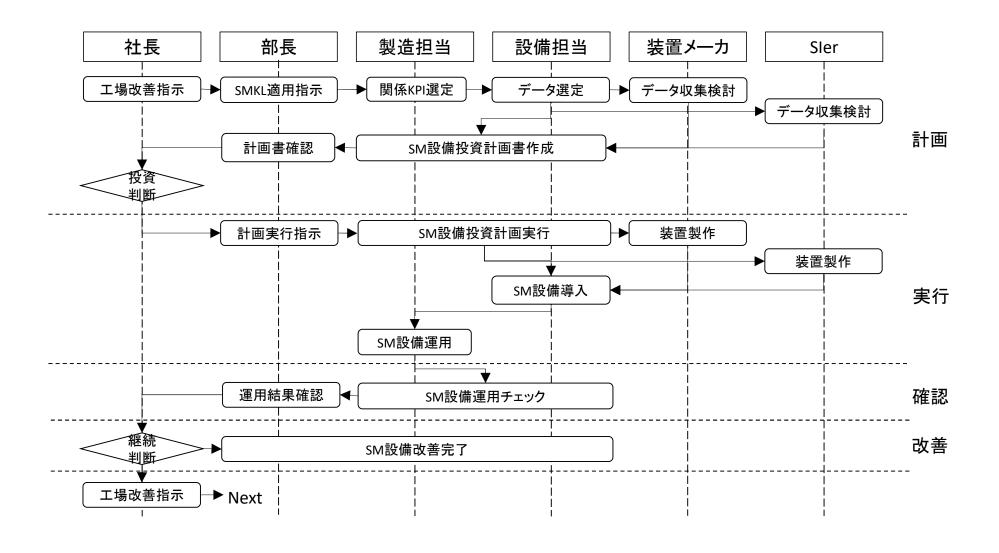
SMKL白書でのKPIについて

規格化された指標以外も様々なKPIが存在するため、 それらもSMKLで見える化レベルを定義する必要がある。

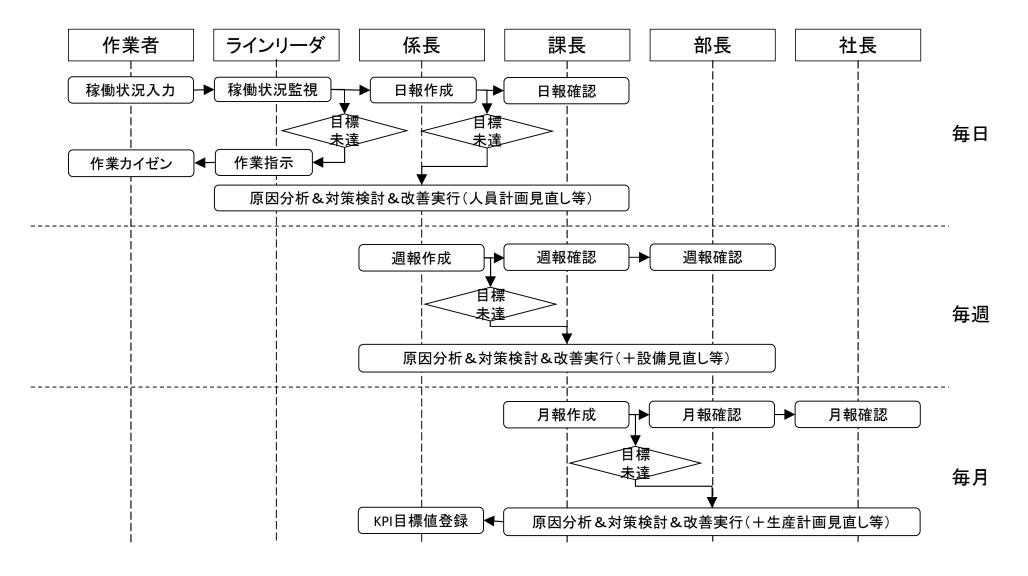




SMKL白書での業務フロー(PDCA)

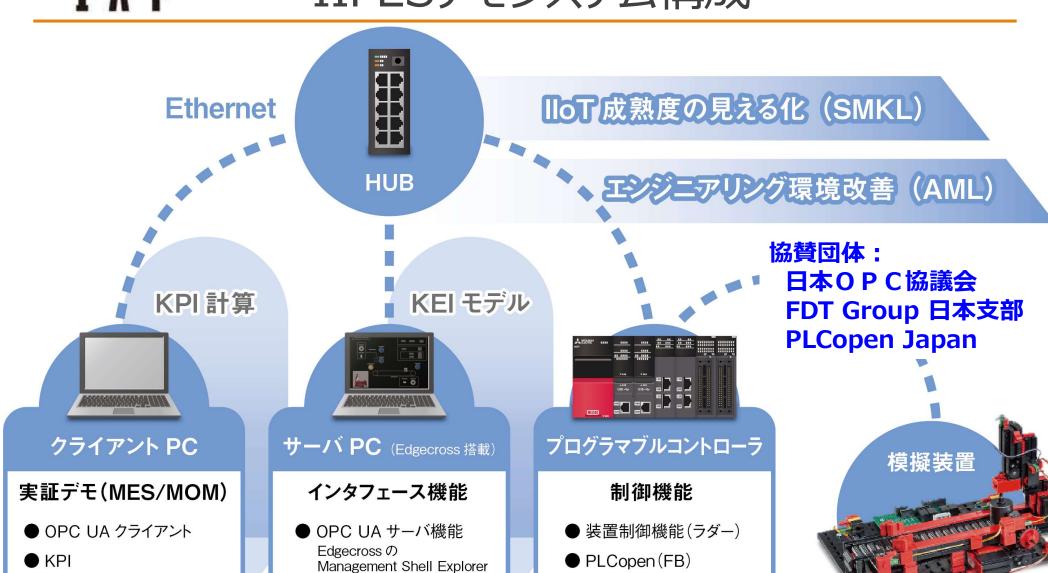


パ F SMKL白書での業務フロー(業務フロー)





IIFESデモシステム構成



FDT



IIFESデモシステムにおける IIoT成熟度レベルのみえる化(SMKL)

レベルd	診える化 (改善) Optimizing		今回のデモ展示		
レベルc	観える化 (分析) Analyzing		**************************************		Iを分析 で正確な改善を提案
レベルb	見える化 (可視化) Visualizing				È、納期、環境などの を可視化
レベルa	データ収集 Collecting				-やI/Oの情報を 術*で容易に収集
みえる化 レベル		設置·作業者 Installation &Worker	ライシ Workshop	工場全体 Factory	サプライチェーン全体 Supply Chain
	管理対象	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4



SMKLオープン化経緯

2015/11 SMKLの原案となるe-F@ctory ガイドラインを作成・運用開始

(三菱電機(株)名古屋製作所)

2017/04 企業標準から、一般公開(業界/国際標準)の 検討を開始 (SMKLと一般呼称化)



2018/02 ロボット革命イニシアティブ協議会(RRI)WG1/標準化AGでSMKLを報告

→日立製作所と三菱電機共同で、国際標準化(Technical Report)の検討を開始(事務局MSTC)

2018/09 IVI研究分科会のKPI検討WGへ、KPIとSMKLの関係性の説明を実施

2018/11 SMKLデファクト化の為、IAFへSMKL白書発行を提案し検討会を開始

2019/04 IAFからSMKL白書を発行(IAFホームページから無償ダウンロード可)

2019/04 IEEE 国際カンファレンス@中国杭州でSMKLを発表
→「優秀論文賞ファイナリスト」にノミネートされた

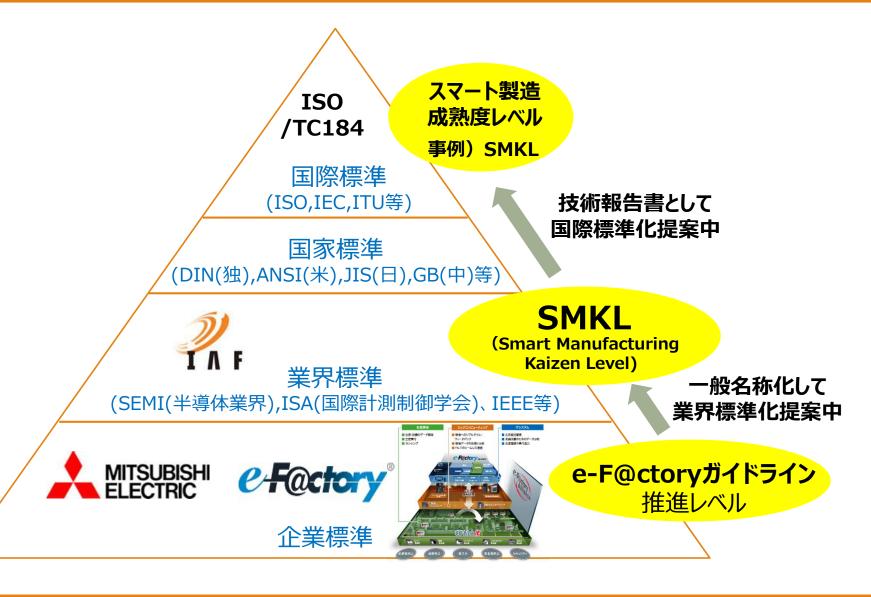
2019/09 IEEE ETFA 2019@スペインの国際学会でSMKLを発表

2020/09 SICE2020(タイ・チェンマイ: Web 開催)でSMKLを発表→IEEE論文として登録

2020/10 計測展OSAKA2020でSMKLについて講演



SMKLオープン化経緯





SMKLのコンセプト動画





SMKL

A STORY OF "KAIZEN"
APPLIED TO PRODUCTIVITY



SMKL

A STORY OF "KAIZEN"
APPLIED TO ENERGY SAVING

YouTube 「SMKL 動画」で検索

提供:三菱電機(株)



ご清聴ありがとうございました

Industrial Automation Forum(IAF) 制御層情報連携意見交換会(CLiC)